

官民研究開発投資拡大プログラム (PRISM)
「革新的建設・インフラ維持管理技術／防災・減災技術」
第5回 運営委員会 議事要旨

1. 日 時 平成29年11月28日(火) 16:00～18:00
2. 場 所 中央合同庁舎第8号館 5階共用D会議室
3. 出席者

<領域統括／座長>

田代 民治 鹿島建設株式会社代表取締役副社長執行役員

<運営委員>

岡本 正 清水建設株式会社代表取締役副社長土木総本部長
(一般社団法人日本建設業連合会インフラ再生委員会委員長)

田崎 忠行 一般社団法人日本建設機械施工協会会長

中島 正愛 株式会社小堀鐸二研究所代表取締役社長

藤田 正弘 三菱電機株式会社常務執行役開発本部長

三木 千壽 東京都市大学学長

<内閣府>

久間 和生 内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 常勤議員

生川 浩史 内閣府 科学技術・イノベーション担当 官房審議官

<事務局>

宮武 晃司 内閣府 科学技術・イノベーション担当 参事官

武田 憲昌 内閣府 科学技術・イノベーション担当 企画官

松村 瑞秀 内閣府 科学技術・イノベーション担当 政策調査員

小林 誠 内閣府 科学技術・イノベーション担当 行政実務研修員

高柳 大樹 内閣府 科学技術・イノベーション担当 行政実務研修員

< S I P 事務局>

中山 裕章 内閣府 科学技術・イノベーション担当 上席政策調査員

松井 伸司 内閣府 科学技術・イノベーション担当 上席政策調査員

4. 議題

- (1) 提案施策の報告等
- (2) 今後の進め方について
- (3) 重点テーマについて
- (4) その他

5. 配布資料

- 資料 1-1 官民研究開発投資拡大プログラムに係る対象施策について（案）〔机上配布〕【非公開】
- 資料 1-2 P R I S MとS I Pとの関係について【非公開】
- 資料 1-3 S I P「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術」について【非公開】
- 資料 1-4 S I P「レジリエントな防災・減災機能の強化」について【非公開】
- 資料 2 推進費配分決定までの進め方（案）【非公開】
- 資料 3-1 重点テーマに関するディスカッションペーパー【非公開】
- 資料 3-2 建設・インフラ維持管理分野における Society5.0 の実現【非公開】
- 資料 3-3 防災・減災分野における Society5.0 の実現【非公開】
- 資料 3-4 S I PからP R I S Mへの期待【非公開】

4. 議事要旨

- (1) 提案施策の報告等
 - 提案施策の報告を事務局より説明。
 - P R I S MとS I Pとの関係について事務局より説明。
 - S I Pの取組についてS I P事務局より説明。
- (2) 今後の進め方について
 - 今後の進め方について事務局より説明し、運営委員会にて承認。
- (3) 重点テーマについて
 - 重点テーマのディスカッションペーパー、生産性革命、国土強靱化計画・防災基本計画、S I PからP R I S Mへの期待について田代領域統括より説明。
 - 「生産性革命」は建設業界においては工事日数削減や品質の向上などを行うための取組であり、他業界とは異なるところがあることに留意すべきである。
 - 「長寿命化」という文言を使用する際には、インフラにおける寿命の定義が明確でないことに留意すべきであり、アドオン施策の議論の際には何を「長寿命化」として取り組むか検討すべきである。
 - S I Pからの期待にある通り、民間セクター（特に指定公共機関）が持つ情報の集約・共有は重要である。ただ、集約・共有した災害情報の活用に関して、P R I S Mが支援する相手を指定公

共機関に限るのでは展開力が弱い。活用に関してより広範な民間セクターを対象とした方がよいのではないか。

- 集約された情報の利用先は災害の初動体制など様々あるため、事業継続体制の構築等とするのは限定しすぎではないか。
- 防災分野においては応急対応が重要である。予測・予防の取組については時間がかかるため、P R I S Mとして取り組むべき範囲を明確化すべき。
- P R I S Mの取組を進める中で、現S I Pの成果の社会実装にも重点を置きたい。
- 国際展開においてi - C o n s t r u c t i o nに関するデータフォーマットの国際標準化を目指してはどうか。
- 国際展開については必ずしも全ての施策で実現できるものではないため、目指すという表現に留めてはどうか。

以上